



医学部
上村 哲司 教授

産学連携から生まれた 次世代のフットケアシューズの開発



共同研究の成果『アサヒフットケア』シューズ



『アサヒフットケア』シューズ

佐賀大学とアサヒシューズ株式会社(久留米市)は、2012年2月、メディカルシューズに関する共同研究を開始しました。2019年から『アサヒフットケア』シューズの試作品で臨床試験を実施。2021年9月から、いよいよ市販開始となりました。

糖尿病とメディカルシューズ

2016年の国民健康・栄養調査で、糖尿病が強く疑われる患者推計と糖尿病予備群を合わせた**糖尿病患者推計は2,000万人**と報告されています。患者さんの約50%は神経障害を合併しており、自分の足の異常を感知できなくなると、足に潰瘍が形成されても気付かず、傷口が悪化し、最悪の場合は切断に至ることもあります。

糖尿病初期では運動療法が重要ですが、シューズの不適切さが原因となり、足部に傷を創ってしまうことは避けなければなりません。このような背景からメディカルシューズの開発が始まりました。



糖尿病足病変
で生じた
皮膚潰瘍例

糖尿病患者及び医療関係者のニーズに応える待望のシューズ

糖尿病に靴の面から対応したものには医師が処方し義肢装具士が作製する靴型装具や、高額な健康靴等があります。しかし、患者様からは、デザイン性、重量感、価格等の問題から、日常的に使用し難いという意見がありました。近年、スニーカータイプのシューズも提案されていますが、糖尿病足病変の予防効果に対する医学的な根拠に欠けるものが多く、医師や専門家からは「安心して患者様に推奨可能な軽度糖尿病のためのフットケアシューズが

是非欲しい！」という強い要望がありました。今回、産学医連携により共同開発した**足に優しい新たなフットケアシューズ**は、見た目もかっこよく、また、予防効果が医学的エビデンスに基づくもので現場での要望に応える画期的なシューズとなりました。

研究室の情報はこちら ▶

